

ニホンジカ保護管理に係る調査項目・実施年度

1. ニホンジカ保護管理計画に基づく調査地点																			
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25								
自然再生推進計画	調査地点数	1期計画					2期計画					調査範囲	調査内容	調査時期	調査頻度	目的			
ニホンジカ保護管理計画	柵内 柵外	1期計画			2期計画		3期計画												
①緊急対策地区																			
上層植生調査	5	7	○							●		30m×30m	種別被度・群度 (No.1~3、5、6のみ※シカの影響を受けにくいNo.4、7は外す)	秋季9~10月	1回/5年	階層構造と構成種の変化から、被害状況を把握する。			
毎木調査(剥皮)	8	3	6	○			○			△	—	30m×30m	剥皮度(5段階)、枯死状況 (△は植生タイプV、VI、VII柵外のみ)	9~10月	1回/5年	各植生タイプにおける、ニホンジカの剥皮による被害状況を把握する。また、過去の剥皮度の上昇率等と比較することで、ニホンジカ個体数調整及び各植生タイプにおける防鹿柵の効果を検証する。			
下層植生調査		5	○	○	○	○	○	○	○	▲	▲	2m×2m×5	種別植被率(%)、最大高 (▲は全体の植被率、優占種の最大高、ササの桿高) (No.1~3、5、6のみ※シカの影響を受けにくいNo.4、7は外す)	秋季(詳細調査は落葉前)9~10月	1回/5年(詳細調査)毎年	稚樹を含む低木層及び草本層に対するニホンジカ個体数調整の効果を検証するとともに、被害状況を把握する。			
糞粒・糞塊調査		13	○	○	○	○	○	○	○	●	●	110コドラート	コドラート内の糞粒数、ライン上の5糞塊に1回糞粒数	秋季	毎年	ニホンジカの生息数を推定し、ニホンジカ個体数調整の効果を検証するとともに、次年度の捕獲目標頭数を算出する。			
ササ桿高調査		6					○	○	○	●	●	2m×2m×9	植生タイプ別柵外のササの桿高		毎年				
②拡張地区(S1~11)																			
植生調査		11								●		20m×20m	種別被度・群度 (新しい剥皮の有無についてメモ)	秋季	1回/5年	階層構造と構成種の変化から、被害状況を把握する。			
糞粒+ササの桿高調査		11								●	●	110コドラート	コドラート内の糞粒数、ササの桿高	秋季	毎年	ニホンジカの生息数を推定し、次年度の捕獲目標頭数を算出する。			
③重点監視地区																			
毎木調査		3	○		○				○			20m×20m	剥皮度(5段階)、枯死状況	秋季9~10月	1回/5年	剥皮度の上昇率から、被害状況を把握する。			
植生調査		3	○		○				○				種別被度・群度	秋季9~10月	1回/5年	階層構造と構成種の変化から、被害状況を把握する。			
下層植生調査		3			○	○	○	○	○	▲	▲	2m×2m×5	種別植被率(%)、最大高 (▲は全体の植被率、優占種の最大高、ササの桿高)	秋季(詳細調査は落葉前)9~10月	1回/5年毎年	稚樹を含む低木層及び草本層に対する被害状況を把握する。			
糞粒調査		3	○	○	○	○	○	○	○	●	●	110コドラート	コドラート内の糞粒数	秋季	毎年	ニホンジカの生息数を推定し、次年度の捕獲目標頭数を算出する。			
④周辺地区																			
毎木調査		5	○						○			20m×20m	剥皮度(5段階)、枯死状況	秋季9~10月	1回/5年	剥皮度の上昇率から、被害状況を把握する。			
植生調査		5	○						○			20m×20m	種別被度・群度	秋季9~10月	1回/5年	植生の変化から、被害状況を把握する。			
下層植生調査		5							○			2m×2m×5	種別植被率(%)、最大高	秋季(落葉前)	1回/5年	稚樹を含む低木層及び草本層に対する被害状況を把握する。			
糞粒調査		5	○	○	○	○	○	○	○	—	—	110コドラート	コドラート内の糞粒数	秋季	1回/5年毎年	ニホンジカの生息数を推定し、ニホンジカ保護管理計画の参考とする。			

○、□:調査済み ●:調査予定 ■:詳細調査、▲:項目、地点を限定し実施